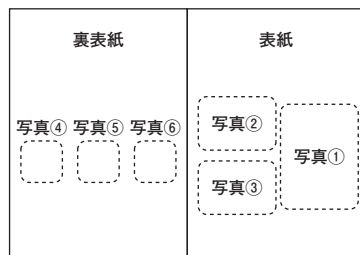


文部科学省シンボルマーク

文部科学省シンボルマークは「羅針盤」をモチーフとしています。教育、科学技術・学術、スポーツ、文化の振興を通じて、希望に満ちた未来を目指す、文部科学省の役割を表しています。上部の円は進むべき方向を象徴し、その使命を見失うことなく、誠意と熱意をもって任務に専心する姿勢を示しています。下部の円の中央から放射状に広がる直線は、社会に開かれた文部科学省の姿勢を表現しています。同時に、親しみやすい簡潔なデザインからは、人、地球など、様々なイメージへと自由に連想を広げることができます。

色彩は日本人に古来なじまれてきた青色を基調として、「瑠璃（るり）色」と「空色」を使用しました。「瑠璃色」は強い意志、品格と知性、「空色」は誠意と未来への広がりという意味しています。

このシンボルマークは、国民の皆様とのコミュニケーションを深めていくための取組の一環として、平成20年1月の新庁舎への移転を機会に制定されたものです。文部科学省は、このマークに込められた意味を忘れることなく、任務に取り組んでまいります。



写真①：小学校第3学年社会科の学習で、タブレットを使って通学路や家のまわりの自分のお気に入りの場所を取材している春日学園の小学生たち

〔写真提供：つくば市立施設一体型小中一貫教育校春日学園〕

写真②：日本遺産「相良700年が生んだ保守と進取の文化～日本でもっとも豊かな隠れ里一人吉球磨～」構成文化財「臼太鼓踊り」

〔写真提供：熊本県人吉市〕

写真③：日本遺産「丹波篠山 デカンショ節—民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶—」構成文化財「デカンショ節」

〔写真提供：兵庫県篠山市〕

写真④：「Sport for Tomorrow」プログラムにおいて実施した運動会に参加するタイの児童たち

〔写真提供：日本スポーツ振興センター〕

写真⑤：東日本大震災の復興支援活動の一環として行われた小学校でのサッカー教室（写真はサッカー日本代表香川真司選手）

〔写真提供：公益財団法人日本サッカー協会（JFA）〕

写真⑥：平成26年度ジャパンパラ陸上競技大会

〔写真提供：エックスワン〕